

○8番（櫻井 茂君） 8番・櫻井 茂です。一般質問をさせていただきます。一問一答方式という形で行います。

最初に、質問1つ目、公共施設マネジメントについてお尋ねをしております。

総務省は、公共施設マネジメントの取組としまして、公共施設等総合管理計画の策定を地方自治体に求めております。石岡市ではこれを受けて、平成29年3月に公共施設等総合管理計画を策定しまして、その実行計画である個別施設計画は、茨城県内では最初に策定したということでホームページに載っております。

石岡市では、現在、合併特例債による道路整備、小中学校の統合による校舎等の整備を進めているのに加えまして、今後は複合文化施設、これは市民ホールを核にしたものでございますけれども、ほかに中央図書館、ふるさと歴史館、保健センター、八郷総合運動公園プール等の大型事業の建設を進める予定となっております。公共施設マネジメントをどのように進めていくのかについて質問させていただきます。

1点目です。公共施設管理の基本方針についてお尋ねをしてみたいと思います。

公共施設等総合管理計画では、5項目の基本方針を示しております。この内容をお尋ねいたします。

○議長（関口忠男君） 市長公室長・門脇君。

○市長公室長（門脇 孝君） ご答弁申し上げます。当市では、公共施設等の更新、統合再編、長寿命化などを計画的に行い、良質かつ持続可能な公共施設サービスを実現することを目的として、平成29年3月に令和38年度までの40年間を計画期間とする石岡市公共施設等総合管理計画を策定しております。計画では公共施設等の総合的な管理に関する5つの基本方針を定めてございまして、1点目は、計画的保全による長寿命化の推進でございます。事後保全の維持管理だけでなく、予防保全の考えを取り入れ、長寿命化を推進するものでございます。

2点目は、施設保有量の最適化でございまして、今後の財政状況や人口特性などに見合った適切な施設保有量の検討を行うものでございます。

3点目は、地区ごとの特性とニーズに応じた施設再編でございます。将来のまちづくりの視点に立った施設や機能の最適配置を進めるものでございます。

4点目は、まちづくりと連動したマネジメントの推進でございます。石岡市総合計画のまちづくりを見据え、国や県、近隣自治体との施設の広域連携を進め、地区ごとの配置状況を考慮したマネジメントを行うものでございます。

最後に5点目として、資産の有効活用でございます。資産や公共施設について行政経営の視点を取り入れ、運用を行うものでございます。この基本方針の考えに基づき、長期的な視点で計画的に公共施設等の更新などを実現していくため、良質かつ持続可能な公共施設サービスの実現とコスト縮減の両立を前提としつつ、40年間で施設総量面積20%削減の数値目標を掲げております。

なお、各公共施設の個別施設計画を踏まえた令和元年8月14日時点の個別施設計画策定で23.84%の削減を見込んでおります。計画に掲げた目標達成に向けて取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 基本方針は、公共施設マネジメントの根幹をなすべき要素だと思います。一方で、個別の施設にどこまでその考え方、基本方針を守らせるのかという面では、社会情勢や石岡市民のニーズも考慮しなくてはならない場面も想定されます。

そこで、基本方針1点ずつ取組の状況を伺ってまいります。

施設保有量の最適化についてどのような取組をしているのかということで、40年間で総量を20%削減すると計画では示しております。施設によっては求められるサービスに対応するため、施設更新に際して面積が増加するものも出てくるとは思いますが。総量規制の背景には予算確保の問題も見えております。現実的な話をすれば、小中学校の統廃合によりまして、総量ではほぼ目標の20%削減を現時点では達成していると、そういう状況だと思います。そういった目線で見ますと、個別施設計画を各担当課が進める際に20%の削減目標を意識しなくなるということも当然考えられますので、どのように保有量の最適化を今後進めていくのかについてお尋ねいたします。

○議長（関口忠男君） 市長公室長・門脇君。

○市長公室長（門脇 孝君） ご答弁申し上げます。施設総量20%の削減につきましては、市の公共施設全体での目標でございます。この数値目標を達成するため、各個別施設計画の策定に際しましても施設重視の発想から機能重視の発想へ転換することとして、集約化や複合化、再配置などの検討を行ってまいりました。その上で各施設の将来ビジョン、実現を優先しつつ、面積20%削減の目標、さらに財政事情も考慮し、実現可能か確認をした上で進めてきたところでございます。

ご指摘のとおり、施設によりましては、更新により面積が増加するものもあるかと存じますが、良質かつ持続可能な公共施設サービスの実現を第一に施設総量20%の削減、さらに財政運営の両立を目指し、マネジメントを行ってまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 計画的保全による長寿命化についてお尋ねをしております。長寿命化の目標を80年としておりますが、この根拠についてお尋ねいたします。

○議長（関口忠男君） 市長公室長・門脇君。

○市長公室長（門脇 孝君） ご答弁申し上げます。長寿命管理の考え方につきましては、定期的な建物点検の実施と中長期的な視点に立った計画的な保全により施設の長寿命管理を図るもので、これによりライフサイクルコストの縮減と財政負担の平準化を図るものでございます。

なお、長寿命化を目指す施設の耐用年数を80年とする理由でございますが、石岡市の施設において、耐震診断を行った際のコンクリートの中酸化調査によりますと、多くの建物で中酸化の進行速度が良好であり、80年以上使用できる可能性が高い結果となっております。このことから、日本建築学会の建築物の耐久計画に関する考え方を参考に、既存の建築物を標準で60年使用し、躯体の健全性調査の結果が良好な場合には80年使用することを目標としたものでございます。

なお、長寿命化を目指す施設で大規模改修の時期を迎える建築物につきましては、改修前に構造躯体の健全性の調査を行い、残存耐用年数を算定、評価いたしまして、目標耐用年数に応じて必要となる修繕、改修内容を実施してまいりたいと思っております。

また、部位の更新時期に合わせて、20年周期で修繕を行うことで建築物を使用している間、建築物に求められる性能が確保できる状態を維持してまいりたいと考えてございます。

以上です。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 80年の根拠ということで、コンクリートの中酸化調査ですか、そういったものを根拠に答弁をいただきました。80年間使用させるということですから、非常に長い、長期的な視点も持ち合わせて、新たな施設を設置する際には、場所であるとか機能であるとか、デザインであるとか、相当慎重に進めていかないと、もう80年の使用に、今度逆にそういった意味での耐えられない部分が出てくるということもありますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

これで計画的保全による長寿命化については、構造躯体の健全性の調査を行って修繕、改修を進める際に、業者に対して依頼内容を当然仕様書で示す必要があります。建築技術等に精通あるいは建築士等の資格を有する市の職員が仕様書作成に関わる必要があるわけでありましてけれども、長寿命化をしっかりと進める上での人材確保は必須と言えます。これまで再三再四議会からも技術者の確保ができていないということが指摘されてきたことはご承知のことと思ひますけれども、どのような対応を取るか、お尋ねいたします。

○議長（関口忠男君） 総務部長・武石君。

○総務部長（武石 誠君） ご答弁申し上げます。議員ご指摘のとおり、建築士等、専門性の高い業務におきましては、詳細な内容になればなるほど一般事務職ではなかなか対応できない部分がございます、専門職の確保は私どもとしても非常に重要であるというふうに考えてございます。

本市においても、人材確保の観点から、職員採用において建築士をはじめとする専門職の募集は行っている状況でございますけれども、売手市場と言われる昨今、なかなか人材が確保できていない状況でございます。申し訳ございません。そのような状況でもございますので、私どもとして、例えば、任期付職員または会計年度任用職員での任用も含めた人材の確保に努めてまいりたいというふうに考えてもございまして、また、一般事務職であっても専門的な知識が必要な業務に対応するためであれ

ば、研修を受講させるなどのスキルアップに努めさせたいというふうを考えているところでございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 大変ご苦勞のある部分だとは思いますが、常勤職員でなくてもいいとは思いますが、いろいろな手法で粘り強く取り組んでいただければと思います。

次に、施設の再編についてであります。

同種の施設が複数あり、再編が可能な施設は、コスト削減の観点からもサービスレベルの維持を前提に再編の検討を進める必要があります。あると便利や、あちらにあるのでこちらも欲しいということでは財政状況が今は許さない状況かと思えます。一方で、個別施設計画で再編や更新を予定していることを前提として、雨漏り等の修繕や冷暖房機器の老朽化による故障に対して予算化を見送ってきた施設も散見されます。市民サービスが安全に提供できるよう、施設の適切な維持管理は市の責任だと感じていただきまして、今後どのような考えで対応していくのか、お尋ねをいたします。

○議長（関口忠男君） 市長公室長・門脇君。

○市長公室長（門脇 孝君） ご答弁申し上げます。施設再編につきましては地区ごとの特性を踏まえながら、それぞれの地区の現状や人口推計などを基に実情に合った施設の再編を進めているところでございます。

なお、再編を予定している施設の修繕につきましては、ご指摘のとおり、市民の安全性を最優先に実施しなければならないと考えております。今後の再編などのスケジュールを踏まえ、修繕やほかの手法などにつきましても検討する必要があると考えてございます。

以上です。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 再編予定の施設の修繕については、市民の安全、これはもちろんでありますけれども、勤務する職員の職場環境もぜひ考えてあげてほしいと思います。特に冷暖房機器に関しては猛暑の関係もあります。機器の耐用年数を5年と考えれば、再編の予定が具体的ではない、あるいは5年以上先の再編ならば、予算化をちゅうちょすべきではないと思います。こちらは提言とさせていただきます。

次に、マネジメントです。

これら基本項目の中で最も重要な要素といえるのがマネジメントだと思っております。施設保有量の質問の答弁では、良質かつ持続可能な公共施設サービスの実現を第一に施設総量20%の削減、さらには財政運営の両立を目指しマネジメントを行っていくとしております。しかし、個別施設計画は、施設を管理する所管が担当することもありまして、施設の維持管理や長寿命化対策を適切に行うことなく、施設利用に大きな制約を受けた施設が複数あります。現実に使えなくなってしまった施設があるわけでありまして、あえて施設名は申し上げませんが、全体のマネジメントが機能していない表れではないでしょうか。今後、大型事業がめじろ押しの状況ですので、



個別施設計画の進捗管理についても一定程度は市長公室がマネジメントを行うべきだと思いますけれども、見解をお尋ねいたします。

○議長（関口忠男君） 市長公室長・門脇君。

○市長公室長（門脇 孝君） ご答弁申し上げます。各個別施設計画の進捗管理につきましては、各担当部局で行っているところでございますが、公共施設等総合管理計画を含めた全体の進捗管理につきましては、外部組織でございます石岡市公共施設等総合管理計画委員会、また、庁議などで協議をしているところでございます。

なお、個別施設計画の実効性を高めるために予算編成上の区分として公共施設経費を設けたほか、政策的判断を要する経費などにつきましては、全庁参加型で財政フレームなどとも照らし合わせた上で事業可否判断を行うマネジメントスタイルを導入しております。これらにより計画のマネジメントを行っているところでございますが、ご指摘のとおり、小中学校の再編、複合文化施設などの大型事業を控えてございます。財源確保の難しさが想定される中、これらの事業がどのようにすれば実現できるかさらに協議、検討を行ってまいります。

以上です。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） マネジメントが機能しないと過度の施設整備で財源を枯渇させてしまっていて、その後が続く施設整備を縮小、あるいは遅延させるということが出ないとも限りません。マネジメントをしっかりと行っていただきたいと思います。

次に、資産の有効活用です。

公共施設の統廃合や再編によりまして役割を終えた公共施設を資産として見た場合、どのように活用するのかスピード感を持って判断する必要があると思います。どのように資産の有効活用を図っていくのかお尋ねいたします。

○議長（関口忠男君） 市長公室長・門脇君。

○市長公室長（門脇 孝君） ご答弁申し上げます。施設総量を抑制してできた土地や建物の余剰資産、市が保有している遊休資産につきましては、売却をすることで一時的な収入以外にも固定資産税の収入増加や民間企業の柔軟な利活用による地域の活性化なども期待できる場合がございます。そのことから、積極的な情報発信により民間提案の募集を行い、売却や貸付けなどについて検討してまいりたいと思っております。

具体的には、新たな市の負担のゼロ、経営計画の明示、事業計画の立案、法令遵守などの基本要件とその他施設ごとに設定する諸条件を踏まえ、施設所管部署とともにサウンディング調査などを行い、資産の利活用を進めてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 資産を有効活用すべき施設に含まれる三村小学校の屋内温水プール、個別施設計画の劣化度評価はBランクであります。公共施設の多くがC、あるいはD評価の中、維持管理経費を度外視すればまだまだ使用できる施設ということになっております。この三村小学校の屋内温水プール、民間企業に活用していただい

れば財源の確保にもつながりますので、施設の状態を劣化させないうちに、ぜひスピード感を持って進めていただきたいと思います。こちらは提言とさせていただきます。

次に2番、計画のローリングについてお尋ねいたします。

1)、個別施設計画であります。

個別施設計画は3年から5年でローリング、見直しをするということで定めているようでありますけれども、このローリングの状況、現況をお尋ねいたします。

○議長（関口忠男君） 市長公室長・門脇君。

○市長公室長（門脇 孝君） ご答弁申し上げます。公共施設等の全体的な方針を示しました石岡市公共施設等総合管理計画を平成29年3月に策定するとともに、10年の計画期間を基本とする個別施設計画を令和元年度までに策定し、施設所管課において事業展開を行っているところでございます。個別施設計画につきましては、社会情勢などの変化に適宜対応するため、おおむね3年から5年で見直しを行うとしてございます。

また、令和6年度当初予算編成の状況におきまして、策定当初から計画に大きく変更が生じている事例も確認されてございます。改めて全庁に個別施設計画の進捗状況や修繕コストなどの調査を現在行ってございます。その上で見直しが必要な場合につきましては、個別施設計画改定手続を促してまいりたいと考えてございます。

以上です。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 公共施設等総合管理計画あるいは個別施設計画が策定されてから一定の年数が過ぎております。その中で3年から5年でローリングする計画を動かしているわけでありまして。一方で、施設によっては、先ほど申し上げたように、施設の運営をやめてしまった、あるいは別な形での再編、そういったものを進めているというような施設もあるようでありまして、しっかりローリングをしているのかという疑問もそこでわいてきます。ホームページを見ますと、ローリングの検討中という表記のある施設はありましたけれども、明確にローリングしたという表記がちょっと見当たりませんでしたので、改めてお尋ねしますけれども、ローリングを行った、あるいは近々ローリングを予定しているという計画はあるのでしょうか、お伺いいたします。

○議長（関口忠男君） 市長公室長・門脇君。

○市長公室長（門脇 孝君） ご答弁申し上げます。現状では、軽微な修正のみとなっております。繰り返しとなりますが、全庁に個別施設計画の進捗状況や修繕コストなどの調査を行ってございます。見直し案、必要な場合につきましては、個別施設計画改定手続を促してまいりたいと考えてございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 新たな設置であるとか、再編が決まった等の動きが明確に出た場合は、ローリングについてはしっかりと対応していただきたいと思います。

次に、財政推計のローリングについてお尋ねをしたいと思っております。

公共施設等総合管理計画では、長期的な視点で計画的に公共施設等の更新等を実現していくため、良質かつ持続可能な公共サービスの実現とコスト縮減の両立を前提としております。議会に示された最初の複合文化施設案では、維持管理経費が倍かかるとの説明でした。コスト縮減の考えは全く見当たりませんでした。この計画そのものはゼロベースに戻ってしまいましたのであれですが、一方で、予算特別委員会で複合文化施設等の質問があって、財政推計に加えられているのかといった質問も出ておりました。この場合、具体的な建設費用の積算ができていないものは財政推計に含んでいないという答弁もあったと記憶しております。大型事業が次々と予定される中で、10か年の財政推計の信頼度をどのように担保するのかお尋ねいたします。

○議長（関口忠男君） 財務部長・佐谷戸君。

○財務部長（佐谷戸美紀君） ご答弁申し上げます。議員の皆様にお示ししております財政推計でございますが、作成に当たり、個別施設計画を参考に施設改修費などは見込んでございます。しかし、複合文化施設のように現時点で協議中の施設等につきましては、概算事業費等が見込めないことなどから、令和6年第1回定例会においてお示した財政推計には計上してございません。事業費が未確定の大規模な事業の財政推計への反映につきましては、事業概要や概算事業費がまとまり次第、財源の検討、調整を行った上で計上し、お示しすることになるものと考えております。

なお、政策判断を要する経費や大規模事業に関して検討する際には、財政推計に概算事業費を反映させ協議しているところでございますが、財政的に後年度への影響が大きいものでございますので、事業に関わる歳入歳出予算額をできる限り精査しまして、適切に、かつ、速やかに財政推計に反映させてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 議会に示す財政推計ですけれども、今後予定される施設整備に関する未確定の数字を多く入れ込むことで、財政推計の信頼度そのものが低下するという心配があることはよく理解できます。特に議会に示す際には、そうしたことになる質問攻めに遭う可能性も高いです。

一方で、市長も私たち議会と同じ情報レベルで財政運営や事業判断をしていると仮定した場合、そこには不安しかありません。圧倒的な情報量の中で精査したものが議会や市民に示されているという前提があると信じております。そうでないと大規模事業の概算費用が確定するたびに財政推計に入れ込むということは、後になればなるほど予算の確保が厳しくなるだけでなく、施設整備の自由度は早い者勝ちになる可能性が高いという懸念があります。市長は、今後進められる大規模事業の建築費等の総枠をつかむ上でも、仮の係数を入れ込んだ財政推計を別に財務部に作成させて確認すべきだと思いますけれども、そのような対応を取られているのかいないのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 市長・谷島君。

〔市長・谷島洋司君登壇〕

○市長（谷島洋司君） ご答弁いたします。安定的な財政運営を進めるためには、将来進めるべき事業のイニシャルコスト、ランニングコストを把握した上で、市の歳入と既存事業とのバランスを図ることが重要と考えております。

現在複数の大型事業が予定されておりますが、それぞれの事業において、現時点におきましては事業概要などを精査している段階で、概算事業費が見込めていない状況でございます。概算事業費がまとまり次第、既存の財政推計を踏まえた将来の推計を作成させますとともに、政策判断に資する資料として活用してまいりたいと存じます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 今回の市長の答弁ですと、仮定の数字を入れ込んだ、今後幾つもある大型事業を含んだ財政推計は見えていないというように聞こえました。でもそれでよろしいんですかね。どこまで数値を精査するかというのはなかなか難しい話だと思いますけれども、先ほど言ったように、通告に示した大型事業以外にもまだまだたくさん多分あると思います。そうしますと、おおむね1か所で、例えば30億かかるというのなら30億掛ける10倍、それをどういう年度で配置していくかということも含めた財政推計的なものはつくっておかないと、年度の、要するに財政運営上の均衡が図れない、あるいは、この施設についてはちょっと大きなお金を入れざるを得ないのでしっかりと財源を確保しなきゃいけないという総合的な判断ができないんじゃないかと思うんです。今のお話ですと、これまでの財務部長の答弁の繰り返しだと思いますので、それでよろしいんですかね。私はそういう意味で質問させていただきました。まさか市長は、石岡市はお金をいっぱい持っているので心配していないと、あるいは基金を取り崩せばいいんじゃないかと思っているとしたら大間違いです。基金は目的があって基金を積み立てているので、目的外では使えませんので、財政状況はこれまで厳しいという話でずっときていましたから、そういった意味では、将来予測も、数字が正しいか正しくないかは別にして、大まかなところは把握しておかないと、計画が遅れば財源が重なる可能性もありますし、一方で、合併特例債は令和12年ですか、期限が決まっておりますから、そういったことも含めて総合的に判断する資料として作っておくべきだと思うんですけれども、もう一度答弁を求めます。

○議長（関口忠男君） 市長・谷島君。

〔市長・谷島洋司君登壇〕

○市長（谷島洋司君） ご答弁申し上げます。財政推計的に、財務部が作成しております財政推計としてお出しする部分につきましては、今までつくっていなかったと。しかしながら、それぞれの事業につきましての財源あるいは後年度負担につきましては、それぞれ検討してまいりました。今後は、財政推計の中にしっかり入れて、議会の皆さんと情報を共有するような形にしてまいりたいと思います。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 市長は今、議会のほうにも同じものを提出したいということでは申しましたが、私はそれは求めていないんです。最初、質問したように、仮定の数字を入れれば入れるほど信頼度が低くなりますので、これは財務部長、ますます説明できなくなっちゃいます。本当にこれなのかと言われて攻撃されちゃうことになっ



ちやいますので、そうじゃなくて、議会には今までの形のものでいいと思うんですよ、それは理屈があるわけですから。ただ、市長はきちっとその先も見据えた、どこまで正しい財政の状況を把握できるかは別として、もう本当に大まかなものでもいいですから、あるときはものすごい財政負担がある年がある、あるいは翌年は軽減される、それじゃ困っちゃうので、なるべく平準化しましょうというのが公共施設等総合管理計画あるいは個別施設計画の流れでございますので、そのところはしっかりと踏まえておいていただきたいと思います。いいかげんな資料、議会に提出されても、我々はそこで無駄な議論をする意味がありませんので、内部情報としてしっかりそういったものを把握しつつ、将来予測を立てた結果として事業案を議会に示すと、我々はその事業案について議論していくという流れを確立していただきたいと思います。よろしく申し上げます。

次に、複合文化施設の方向性についてお尋ねをしてみたいと思います。

複合文化施設につきましては、公共施設マネジメントをどのように捉えて生かしていくのかということで、お尋ねしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 市長直轄組織理事・浅田君。

○市長直轄組織理事兼駅周辺にぎわい創生担当兼イベント広場利活用担当（浅田禎智君） ご答弁申し上げます。現在検討を進めております新たな施設は、令和2年3月に閉館した市民会館に代わるホール機能を中心としたものでございます。

なお、施設規模としましては、旧市民会館よりは増加することが想定されますが、その検討に当たっては、良質な市民サービスの提供を目的とし、公共施設等総合管理計画における基本方針を踏まえながら作業を進めているところでございます。

市民の文化芸術活動をはじめとする多様な活動を支える公共施設の1つとして、ホール機能を有する施設は大変重要な位置づけにあるものと考えております。新たな施設につきましては、以前の市民会館以上に多くの市民に利活用されるよう促進を図っていくとともに、相互利用や事業実施といった点での周辺自治体との連携を進めていくことにより、公共施設マネジメントの最大目的である持続可能な公共サービスの提供に努めていきたいと考えているところでございます。

一方、施設を供用開始した後の維持管理や更新に必要な財源の確保といった課題もでございます。市民のニーズに応えた良質かつ持続可能な公共施設サービスの実現とコストの縮減の双方の視点に十分留意しながら、施設規模の検討を行っていく必要があるものと考えてございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 先ほどちょっと述べさせていただきましたが、一番最初の複合文化施設案につきましては、維持管理経費が倍かかるよという説明で、私も質問をさせていただいた記憶がございます。そういった意味で、公共施設マネジメントが適切に反映されていないんだらうということも先ほど申し述べました。今回いただいた答弁では、それをきちっとやるよということでありますので、そういった部分も含めて、説明の際に理論武装がしっかりできるような施設整備の提案をしていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

市長にお尋ねしたいと思います。市民のニーズに応えた良質かつ持続可能な公共施設サービスの実現とコストの縮減の双方の視点に十分留意しながら施設規模の検討を行っていく必要があると答弁が出ておりますのでお尋ねしますけれども、誰がこのコスト縮減や施設規模の審査判定を行うのかお尋ねしたいんです。

要するに、当初案では、多分誰も判定していないのであという結果になったんだろうと思います。要するに公共施設マネジメントに適合しているかどうか、これを判定するのは市長公室でしょうか、それとも財務部でしょうか。担当の案を議会や審議会に説明する前にマネジメントの観点から査定審査しておかないと、計画案が承認、動き出してから、施設規模もコストも大幅増だったということになりかねませんので、この点、市長はどのように考えているのかお尋ねします。

○議長（関口忠男君） 市長・谷島君。

〔市長・谷島洋司君登壇〕

○市長（谷島洋司君） お答えします。公共施設につきましては、市民が安全安心に利用できることを最優先といたしまして、良質かつ持続可能な公共施設サービスの実現、さらに魅力あるまちづくりを目的にマネジメントを行ってまいりました。今後もこのことを念頭に置きまして、さらに公共施設等総合管理計画や財政運営を踏まえてマネジメントに取り組んでまいりたいと思っております。市長自らリーダーシップを取って進めてまいりたいと思います。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 公共施設等総合管理計画について質問をしてまいりました。ぜひ、複合文化施設はもう目の前で議論が進んでいます。そういった部分も含めて、個別施設計画の管理は担当なのでじゃなくて、ちゃんとトータル的なマネジメントをぜひお願いしたいと思います。市長公室、財務部、それぞれの部長よろしくお願ひしたいと思います。また、それを指示するのは副市長であり、市長ですので、その点よろしくお願ひしたいと思います。

次の質問に入りたいと思います。

八郷運動公園の屋外プールの整備について質問をさせていただきます。

八郷運動公園の屋外プールは、昭和53年に供用が開始されまして、ウォータースライダープールを備え、多くの利用者でにぎわう施設として運営されてきました。令和3年の利用開始直前、設備の故障と新型コロナウイルス感染症防止の観点から利用中止を決めたところであります。その後、築40年を超えた老朽化による復旧困難なプール本体からの漏水と設備機器の交換部品の欠如と言ったらよろしいんですか、が判明しまして、建て直しの是非が検討されてきました。令和6年3月の文教厚生委員会で屋内プールを整備する方向性が報告され、現在は具体案の検討が進んでいるものと思います。具体的な決定には至ってないとはいえ、方向性に即した調査検討を行い、整備案を固める段階に入っていると思いますので、この方向性を確認させていただきます。

まず、1点目、プールの設備概要について伺います。

先ほど申し上げました、令和6年3月の文教厚生委員会、施設整備について簡単に概要が報告されているようですので、確認の意味でお伺いいたします。その後の検討で変更等があればお尋ねをしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 教育部長・神谷君。

○教育部長（神谷一美君） ご答弁申し上げます。八郷総合運動公園プールにつきましては、議員からございましたように、新型コロナウイルス感染症の影響と施設の老朽化により、令和3年度以降使用が中止となっております。

また一方で、小中学校のプールにおきまして、老朽化により使用できないプールが増えている状況でございます。令和6年5月末現在で、市内小中学校計20校のうち、自校プールの利用を予定している学校が5校となっており、その他の15校につきましては、他校のプール及び民間プールの利用を予定してございます。今後も学校プールにつきましては、老朽化により使用できない状況が見込まれてまいります。プール整備事業につきましては、待ったなしの喫緊の課題と認識してございます。このようなことから、さきの常任委員会において、八郷総合運動公園プールの今後の方向性として、安定したプール事業を行うとともに、市民の利用による市民満足度の向上及び健康増進のための屋内プールを前提として、八郷総合運動公園内に建設したいとの考えをお示したところでございます。現在、方向性についても検討している段階でございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 令和6年3月開催の文教厚生委員会の会議録を確認しましたところ、八郷運動公園のプール、過去10年間の利用者数が減少している。理由としては、酷暑、猛暑です、レジャーの多様化、高速道路等の整備による利便性など、利用者の満足度を得られなくなっていた施設として説明されておりました。最も大事な理由が私は抜けているんじゃないかと思いました。これは施設の劣化です。40年前の常識で整備された施設ですから、プライバシーへの配慮や衛生環境、バリアフリー、快適性が今の時代に合っていない部分がたくさんあり、加えて、亀裂や凸凹などの劣化が著しくて、利用者が歩いていても痛いというようなこともあったりしたのではないかと、私は、その点は確認してはいませんが、プールの現状を見るとそのような感じがしており、魅力度が非常に落ちたのかなというところでの利用者の減少があったのかなと感じております。それはなぜそうなったかといえば、維持管理や改修計画が予定どおり行われていない、いなかった、これらがあると思います。これらは反省すべき点であると思います。そうしたこともあって個別施設計画というものが公共施設の中で出てきているわけでありましてけれども、レジャー型のプールなんですけれども、これで、皆さんご承知だと思いますけど、有名なのが真岡市にある1万人プール、井頭公園プール、こちら有名ですけれども、ホームページを見ましたら、最近利用者が増えているというようなことで記載がございました。そういった意味では、レジャー型のプールの需要がなくなっているわけではないんですよね。もちろん真岡市のほうのプールは設備投資していますから、スライダー関係もものすごい大きな規模のものがたくさんあったり、波の立つプールがあったりということで、利用者の求め

るものを供給してくれるということでの需要が増えているんだろうと思いますけれども、今回の整備に当たりまして、利用者が求める施設環境の把握が適切にできているのかなという感じがしております。把握できていないと施設整備の方向性を誤る可能性が非常に高くなりますので、学校プールとしての位置づけと一般開放利用という多目的な利用を目指した先にあるものが、帯に短したすきに長しでは、先ほどの80年の話じゃないですけど、非常にもったいない話なので、その辺は十分な配慮をさせていただきたいという思いが強いです。それで屋内プールを選択した理由を改めてお尋ねしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 教育部長・神谷君。

○教育部長（神谷一美君） お答えいたします。屋内プールを選択した理由といたしましては、今後は老朽化により使用できない学校プールの修繕を行っていくのではなく集約化を基本として、八郷総合運動公園内にプールを建設していきたいと考えており、天候や気温等の影響を軽減でき、安定したプール授業が実施できる屋内プールとしたものでございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 市財政の負担軽減、そしてプール授業を確保する目的を最優先したということで、屋内プールを整備する方針となっているのだろうとは思いますが。結果として一般利用者への目線が下がっているのだろうというふうにも見えます。プール授業の確保を優先したいという思いのようですが、その必要性、これをどのように判断しているのかお尋ねいたします。

○議長（関口忠男君） 教育部長・神谷君。

○教育部長（神谷一美君） お答えいたします。プール授業につきましては、水泳で求められる身体能力を身につけること、また、水中での安全に関する知識の向上を促すこと、さらに、水の事故を防ぐ論理的な思考力を育むことを目的としておりまして、学校におけるプール授業の必要性は高いものと認識してございます。

当市では、文部科学省が策定している学習指導要領にのっとり、年間10時間程度のプール授業を実施しております。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 石岡に限らず学校プールの老朽化は全国的な話でありまして、財政負担の軽減を考慮しましてプール整備を取りやめて、民間の施設利用やプール授業における実技指導をやめている自治体も出ていることが報道で明らかになっています。いずれにしても、先ほど答弁もありましたけれども、年間10時間程度の授業では泳げるようにはなりません。児童生徒の安全や生命を考えるのなら、着衣をつけて水の中でいかに体力を消耗せず浮いていられるかを学ぶ授業に取り組むべきだと思いますけれども、現実にはプールの水質悪化の問題もあって、多くの自治体で実現できていないという状況のようです。

それで、次の質問に入りますけれども、温水プールを想定しているのか、屋内プールという方針は決めていますけれども、屋内となれば、石岡小学校の温水プールのよ



うに温水化するのか、あるいは温水化しないのか。温水プールにするとすると、1年間、本格的に運営するという選択肢も出てきますので、一方で、そうでなければ、期間限定の簡易的な温水プールというのもあるようです。想定されているのはどのような形態の屋内プールで、温水化を想定しているのかいないのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 教育部長・神谷君。

○教育部長（神谷一美君） お答えいたします。八郷地区の小中学校のプール授業を実施するとともに、プール授業以外の時間帯は一般の利用とすることで、市民の健康づくりの場となる屋内プールを検討してまいりたいと考えております。

学校プールを集約化した屋内プールとして、先ほども申し上げましたが、天候に左右されず、計画どおりに授業を行うことで、教育施設の効率化を図るとともに、広く一般の方の利用により、スポーツでつながる拠点として健康づくりや地域活性化にも寄与していきたいと考えております。

先ほど議員からございましたように、通年利用可能な温水プール、また、期間限定の簡易的な温水プールもございますので、メリット、デメリットも踏まえて検討しているところでございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） そうしますと、当然コストパフォーマンスも検討されていると思いますので、こちらについて質問させていただきます。

施設整備及び維持管理経費、施設整備では一次経費である用地取得費及び建設費、八郷運動公園内に造るのであれば用地取得費というのは必要ないんでしょうけれども、そして、二次経費としての運営維持管理経費が発生します。概算で想定されている経費、把握されているようであればお尋ねをしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 教育部長・神谷君。

○教育部長（神谷一美君） ご答弁申し上げます。まず、建設用地については、現在の八郷総合運動公園内を考えているところでございます。

施設整備の建設費につきましては、現時点では他自治体の事例を調査しているところでございまして、想定されている経費については、まだ算出してございません。

参考例としまして、筑西市では、学校プールの集約化のため、4校の中学校プールを整備しております。本年度整備中の1校のプールは、自動開閉式の天井付屋内プールで、25メートルプール一層、建設費は約6億5,000万と聞いております。

また、運営維持管理経費につきましては、令和4年度の石岡小学校温水プールを例としますと、こちら令和4年度は、4月から6月まで工事により使用を控えていたため9か月分の計上となっておりますが、水質管理、機械操作及び点検、清掃業務等を含め、管理業務委託料として1,931万6,000円となっております。今後、石岡市に見合った規模感、こちらを検討しながら、経費について算定してまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 次に、その効果、利用者数であるとか、利用方法等のこうした算定の考え方をお尋ねしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 教育部長・神谷君。

○教育部長（神谷一美君） お答えいたします。屋内プールを整備した場合の効果につきましても今後算定してまいりたいと考えておりますが、現段階においては、答弁、重複いたしますけれども、天候に左右されず、学校授業の日数が確保でき、一般の利用においても安定した利用が期待できることでスポーツにつながる拠点として健康づくりや地域活性化にも寄与していくものと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 屋内プールになると、多分一般利用者の数はこれまでの屋外型より圧倒的に少なくなると思います。それは致し方ないと思うんですけれども、屋外型の場合は、夏の暑い時期に大勢の方が一斉に来ますので、屋内型になると同じ方と言ったらいいんですか、週に何度も来られる方が年間を通して、あるいは営業期間を通して定期的に通われる方が多いようなので、それで利用者数は伸びますけれども、個人個人で判断すると人数は圧倒的に多分少なくなりますね。

そういったことも含めまして、3点目、整備事業の進め方についてお尋ねしますが、先ほど、筑西市の屋内プールの調査をしているということが答弁されました。ほかにもつくば市の屋内温水プールの調査も教育委員会でしているようでありまして、今後どのような分析調査をどのようなスケジュールで行っていくのか、想定されるものがあればお尋ねしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 教育部長・神谷君。

○教育部長（神谷一美君） お答えいたします。今後の進め方といたしましては、学校プール集約化による水泳授業、また一般の方々の利用、メンテナンスなど、それぞれに想定される期間、また、児童生徒数、それから一般の利用者数など、こちら、参考にいたしまして、プールの規模、それから費用や財源等について整理しまして、関係部局と協議を重ねまして具体的な整備方針を定め、さらには基本設計、実施設計とつなげてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） その際には、ぜひ議会に対する報告も行っていただきたいと思っております。

それで、少子化が進みまして、学校の統廃合を今進めているところです。公共施設の維持管理軽減のため、プール授業を優先で八郷運動公園のプールを考えると。ただ一方で、使用継続となる屋外型の自校プール、これもあるわけです。市内全ての小中学校が今回提案される屋内プールを使うわけではありません。そして、プール授業による実技を伴わなくても水の危険性や緊急時の対応を体感できるとして、実技を行わない学校も増えてきています。これは先ほど述べました。そうした状況を考えると、仮に学校優先で考えるのなら、生徒数の一番多い学校に隣接して屋内プールを学校授

業専用プールとして建設したほうが維持管理経費も安くなる上、カリキュラムも組みやすくなりますし、送迎費用の軽減、移動時間の短縮ということがたくさんあるんじゃないかと思うんです。そうなると八郷運動公園敷地である必要性は私はないんじゃないかと思うんです、今の教育委員会の考え方でいくと。一般の利用者の方は多分相当減りますので、先ほども申し上げたように、石岡小学校のプールの状況で考えると、固定客の方がプールを利用されているということなので、固定客の方には我慢していただいて、学校専用で造ったほうが多分コストは安くなると思います。結論は別にしてもそういったことも含めて、ぜひご検討いただきたいと思います。

県内でスライダープール、今の八郷運動公園のプールのようにスライダーの楽しいプールがあるのは調べましたけど、つくばの牛久沼近辺にある1か所のような感じです。ちょっと滑り台的なものをつけているプールもあるようですけれども、非常に少ないです。規模が当然違うんですが、八郷運動公園のプールの希少性は大きな魅力の1つになるだろうと私は感じております。残念ながら教育委員会の考え方では、石岡の魅力度がますます下がってしまうように思えてなりません。方向性を決める際には慎重な検討をぜひお願いしたいと思います。先ほど申し上げたように、長寿命化で80年使用する施設ですから、中途半端な結論を導かないよう、ぜひお願いしたいと思います。

市長はどのような考えを持って石岡市の魅力度アップと今回の学校授業優先プールの整備事業に向き合うお考えでいるのか、お尋ねしたいと思います。

○議長（関口忠男君） 市長・谷島君。

〔市長・谷島洋司君登壇〕

○市長（谷島洋司君） お答えします。先ほど部長から答弁してございますけれども、八郷総合運動公園プール整備事業は喫緊の課題と認識しているところでございます。学校プール以外にも広く一般開放を行い、市民の健康づくりの場、スポーツでつながる拠点として早急に整備を進めてまいります。

○議長（関口忠男君） 8番・櫻井 茂君。

○8番（櫻井 茂君） 真岡の1万人プールは、私も家族で何度も遊びに行った思い出があります。八郷の運動公園のプールもそれに劣らず近場で楽しい時間を過ごせるプールということで、八郷地区の方は家族連れで、例えば、若いお父さん、お母さんとお子さんと暑い夏の日差しの下でプールを楽しんだという思い出をお持ちの方がたくさんいらっしゃるんじゃないかと思いますね。そうした思い出が屋内プールだと多分なくなっちゃう可能性が非常に高いです。石岡の魅力だということからいっても、できればそうした今までのプールの形態を保持しつつ、ちょっと進化したスライダープールがあると若い方々は、その夏、暑い時期にお子さんとの思い出づくりに利用するという形ができると思いますので、ぜひ、頭の片隅に置いておいていただいて、今後の検討の際にはそうした点も含めてご検討いただければと思います。

以上で質問を終わります。ありがとうございました。